

2024 年度賢材研究会活動報告

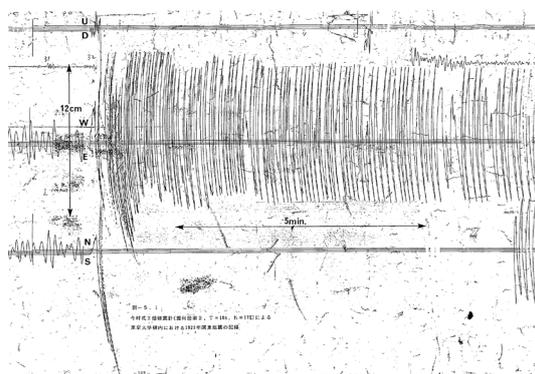
清水建設株式会社 岡田敬一

今年度の賢材研究会の活動について報告いたします。今年度は、総会を含む 3 回の学術技術交流会に参加し、様々な施設見学を行いました。また、意見交換会を通じて異業種のメンバーとの交流を深める貴重な機会をいただき、大変勉強になりました。このような場を提供していただき、誠にありがとうございました。さらに、微力ながら幹事会にも参加させていただきました。昨年度は全ての活動に参加できましたが、本年度は諸般の事情により一部参加できない会もございました。それでも、ほぼ全ての活動に参加できたことを嬉しく思っております。

昨日 3 月 11 日は、東日本大震災の発生から 14 年を迎える日でした。また、昨年 8 月 8 日には、気象庁より南海トラフ地震に関する臨時情報（巨大地震注意）が初めて発表されました。さらに、一昨年は、1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に発生した関東大震災から 100 年という節目の年でもありました。これらの出来事を通じて、今なお大地震の発生が懸念されている状況を再認識し、過去の教訓をどのように生かしていくべきかを改めて考える機会となりました。

私は建設会社の研究部門に所属し、地震のモニタリングシステムの開発研究に従事しております。いざという時に地震直後の建物の安全性を確認できる「安震モニタリング®」の普及・展開を進めており、このようなシステムが災害時に少しでも役立つことを願っております。また、関東大震災（大正関東地震）で記録された地震波形データを残した「今村式 2 倍強震計」の記録について再評価を行い（図 1、図 2 参照：清水建設 横田・他（1989）記載の基本情報を基にしています¹⁾）、その成果を論文として連名で投稿いたしました。

1) 横田治彦・片岡俊一・田中貞二・吉沢静代, 1989, 1923 年関東地震のやや長周期地震動, 今村式 2 倍強震計記録による推定, 日本建築学会構造系論文報告集, 第 401 号, 35-45.



今村式 2 倍強計の外観（国立科学博物館所蔵） 大正関東地震の記象（すす書き記録） - 東大本郷

図 1 関東大震災の本震を記録した今村式 2 倍強震計

